

## 実務の状況に対する申立書

\* 幼稚園教諭・養護教諭の場合は、項目内容を自身の専門の実務に読み替えて記載して下さい。

### 1. 教科・領域等の指導に関わる実務経験・研究業績

(1) 自己評価 (A,B,C,D の基準は、A は「十分当てはまる」、B は「当てはまる」、C は「やや不十分」、D は「不十分」とする)

・授業実践においては、週ごとの教育計画等に基づいて実践している。	A・B・C・D
・授業実践においては、時数や進度などの管理に努めている。	A・B・C・D
・授業等の計画を作成する際は学年スタッフや教科担当などと連携しながら進めている。	A・B・C・D
・学校園の教育目標や育てたい子ども像を念頭において教育計画を立てている。	A・B・C・D
・校内の教科等の年間指導計画や全体計画などの作成に関与している。	A・B・C・D
・学習指導要領の趣旨を踏まえ、学校・教育委員会の教育課題を念頭に教育課題解決に向けた実施に努めている。	A・B・C・D
・授業実践にあたっては、幼児児童生徒の実態に応じた教材研究、教材開発などに努めている。	A・B・C・D
・授業実践にあたっては、幼児児童生徒の実態に応じて指導方法や指導技術の工夫や改善に努めている。	A・B・C・D
・道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間など教科以外の教育活動の指導にも力を尽くしている。	A・B・C・D
・教科や領域など教育活動の実践にあたっては PDCA サイクルを意識した指導と改善を意識して自己評価を適切に行っている。	A・B・C・D
・少人数、習熟度別、TT等の様々な形態の授業実践の経験がある。	A・B・C・D

(2) 特記事項又は上記項目以外の具体的取り組み

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

### 2. 研修・研究授業等に関わる実務経験・研究業績

(1) 自己評価 (A,B,C,D の基準は、A は「十分当てはまる」、B は「当てはまる」、C は「やや

不十分」、Dは「不十分」とする)

・地域や学校園の実態に応じた特色ある教育活動の創造に努めている。	A・B・C・D
・学校園内の研修や地区研究会で、研究授業や提案を進んで行っている。	A・B・C・D
・教科等に係る研修会（国、地方自治体、学会）等に参加している。	A・B・C・D
・幼児児童生徒理解や生活指導・進路指導に係る研修会（国、地方自治体、学会）等に参加している。	A・B・C・D
・様々な研修会等に参加するなど、絶えず自己研鑽に努めている。	A・B・C・D

(2) 特記事項又は上記項目以外の具体的な取り組み

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

3. 生徒指導・教育相談等に関わる実務経験・研究業績

(1) 自己評価 (A,B,C,Dの基準は、Aは「十分当てはまる」、Bは「当てはまる」、Cは「やや不十分」、Dは「不十分」とする)

・日頃から幼児児童生徒の実態に応じて、子どもたちの理解に基づく対応を行っている。	A・B・C・D
・日頃から幼児児童生徒の進路指導(キャリア教育)の充実に努めている。	A・B・C・D
・幼児児童生徒の問題行動等に係る対応に積極的に取り組み、生徒指導の推進に努めている。	A・B・C・D
・クラブ活動、部活動、地域活動、ボランティアなどの指導に積極的に参加し、取り組みに努めている。	A・B・C・D
・分掌上で、生活指導や進路指導に係る職務に積極的に取り組み対応している。	A・B・C・D
・健全育成に係る地域の取組みや主催行事等に参加している。	A・B・C・D

(2) 特記事項又は上記項目以外の具体的な取り組み

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

4. 学級・学校経営に関わる実務経験・研究業績

(1) 自己評価 (A,B,C,D の基準は、A は「十分当てはまる」、B は「当てはまる」、C は「やや不十分」、D は「不十分」とする)

・朝の会、ホームルーム、給食指導、清掃指導などを工夫して行っている。	A・B・C・D
・家庭や保護者との連携について綿密に行っている。	A・B・C・D
・学級経営や学年経営、教科経営を組織的かつ計画的に進めている。	A・B・C・D
・学校園経営方針を視野に入れて教育活動や指導事務を行っている。	A・B・C・D
・学校園運営改善のための評価 (学校評価委員会、学校運営連絡協議会等) に関わっている。	A・B・C・D

(2) 特記事項又は上記項目以外の具体的取り組み

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

5. その他、特筆すべき実務経験・研究実績

(1) 自己評価 (A,B,C,D の基準は、A は「十分当てはまる」、B は「当てはまる」、C は「やや不十分」、D は「不十分」とする)

・教育者としてコンプライアンスを意識して教育活動や指導業務を進めている。	A・B・C・D
・組織の一員としての自覚をもって教育活動や教育事務にあたっている。	A・B・C・D
・教育者としての誇りや生き甲斐をもって教育にあたっている。	A・B・C・D
・子どもや保護者、地域の方に信頼されている。	A・B・C・D
・同僚や上司から信頼され、指導的役割を果たすことが期待されている。	A・B・C・D
・自他のストレスマネジメントに配慮して職務にあたっている。	A・B・C・D

(2) 特記事項又は上記項目以外の具体的取り組み

.....

.....

.....

.....

.....

.....

令和 年 月 日  
氏 名

---

**【注意事項】**

1. この書類は短期履修制度による履修の可否の審査に使用するもので、教職大学院の可否には関係ありません。
2. (1) 自己評価の評価基準は、『A:十分当てはまる B:当てはまる C:やや不十分 D:不十分』です。全ての事項につき、A,B,C,Dのいずれかを○で囲ってください。
3. (2) 特記事項については、1～6の項目に関する、過去5年以内の具体的な事実(実践報告など著作物がある場合はその典拠)を記載してください。特記事項のような実績がなくとも、特に努力して取り組んでいることがありましたら、そちらも記載して下さい。
4. 出願書類『教育実践・研究業績書』に記載した①題目名は、本書類の(2)特記事項にも記載してください。『教育実践・研究業績書』に記載した②発行年等③概要、及び報告書等の添付書類は、短期履修制度の審査にも使用します。
5. 特記事項の記載について、事実との相違が判明したとき、合格を取り消すことがあります。